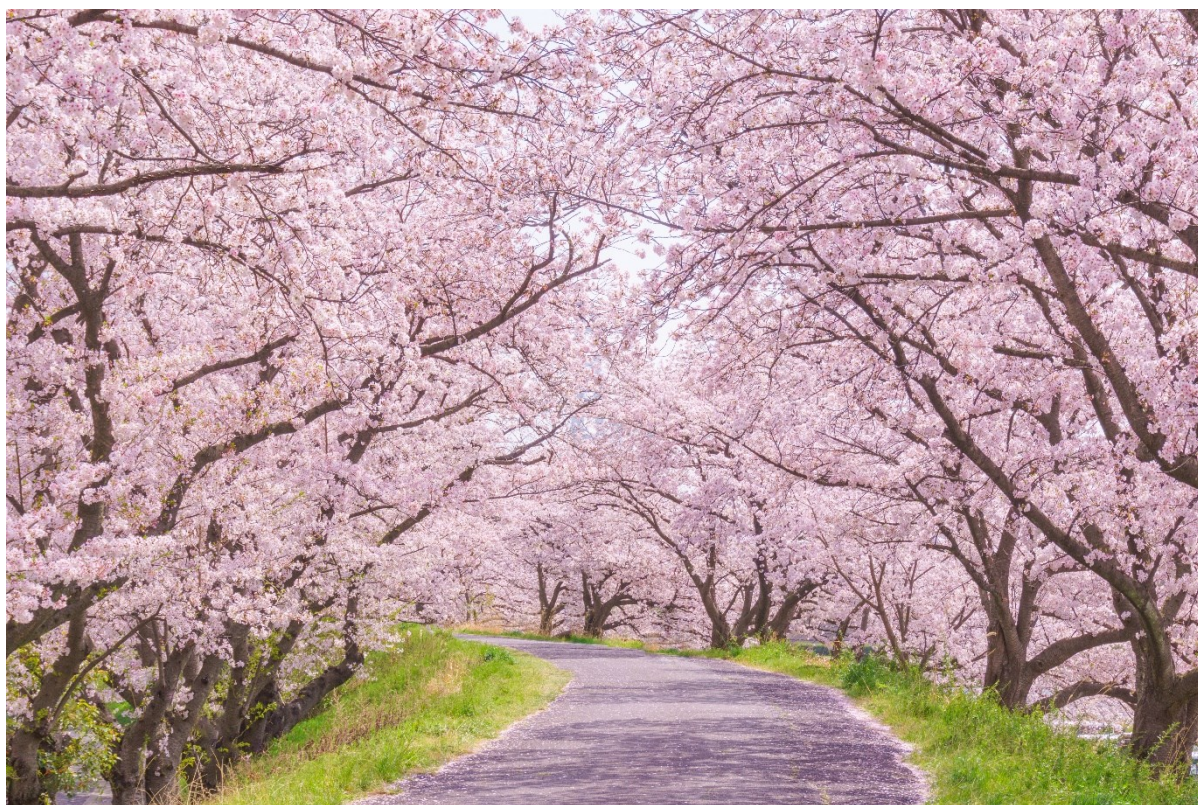


エコアクション21 環境経営レポート 2021年度

(活動期間: 2021年5月1日~2022年4月30日)



® 環境省
エコアクション21
認証番号0003302



株式会社 ピーク・ジャパン
2022年 6月 30日 発行

◇ 目 次 ◇

- 1.組織の概要及び対象範囲
- 2.環境経営方針
- 3.環境経営目標
- 4.環境経営計画と取組実績及び評価
- 5.次年度の取組内容、および中期目標
- 6.環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無
- 7.代表者による全体評価と見直し結果・指示

1.組織の概要及び対象範囲

(1)事業所名及び代表者氏名

株式会社 ピーク・ジャパン

代表取締役 大澤 金満

(2)所在地

〒222-0033 神奈川県横浜市港北区新横浜2-13-13 TPR新横浜ビル3FB

(3)環境管理責任者

清水 香里 (e-mail:shimizu@peak-japan.co.jp)

佐藤 瑞枝 (e-mail:sato-m@peak-japan.co.jp)

TEL 045-474-1144 FAX 045-474-5557

(4)事業活動の内容

電子部品の販売

<主な取扱商品>

E&E(香港、トランス内臓コネクタ)



Taitien(台湾、クリスタル)



JPC社(MAIN SUPER)製品



基盤ASSY、加工製品



製造治具製品



成形製品



シール/ラベル製品

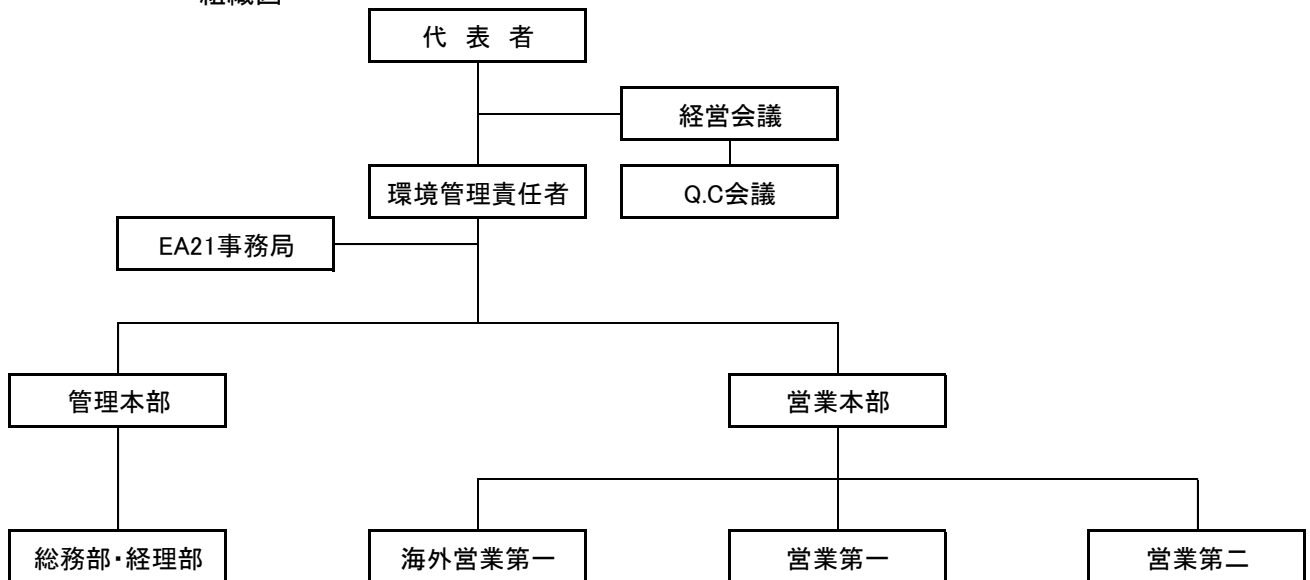


(5) 事業規模

売上高 21億3,347万円 (2021年5月1日～2022年4月30日)
 従業員 21名
 延床面積 275.37㎡ (83.3坪)

(6) 対象範囲

対象組織 株式会社 ピーク・ジャパン
 対象活動 電子部品の販売
 対象期間 2021年5月1日～2022年4月30日 迄
 組織図



業務分担表

主要担当業務	
代表者	<p>EA21 環境経営システムの統括責任者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 環境経営方針の策定、従業員への周知 ・ リソース(人・物・金)の提供 ・ EA21 の取組状況に関し評価、見直しを実施 ・ EA21 事務局長(環境管理責任者)、事務局員の任命
環境管理責任者 (EA21事務局長)	<p>EA21のシステム構築・実行管理責任者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ EA21 ガイドラインに沿ったシステムの構築、運用 ・ 上記の結果を代表者に報告する ・ 代表者による全体の評価と見直しに必要な情報を代表者に提供(報告)する ・ 上記報告等に対する代表者の指示に対応してシステムの改善を図る ・ 文書・記録類の承認 ・ 環境コミュニケーションの実施(環境経営レポート作成) ・ 教育・訓練の立案、実施責任 ・ 取組状況の確認と問題の是正処置の確認 ・ 環境への負荷・取組の自己チェックの実施 ・ 環境目標、活動計画の策定、運用の推進 ・ 関連法令の取り纏めと遵守評価 ・ 実施体制(業務分担)の構築と周知 ・ 実施及び運用手順の作成、周知 ・ 取組状況の確認と問題の是正 ・ 環境に関する改善提案の受付
EA21事務局	<p>事務局長を補佐し、EA21を推進する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 環境関連文書・記録の作成と整理 ・ 代表者による全体の評価と見直しに必要な情報を収集、集約する ・ 代表者からの見直し指示に対してシステムの改善を図る
従業員	<p>全員参加でEA21 システムの運用を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 環境経営方針、目標、実施計画及び自分が実施すべき活動の理解と実行 ・ 教育・訓練の受講 ・ 環境関連法規の遵守 ・ 社内外の環境情報の収集・伝達 ・ 積極的な改善の提案を実施

2.環境経営方針

基本理念

当社は電子機器に使う各種電子部品の提供を通じ、社会に貢献することを目指しています。

私たちは社会の一員であるとの認識に立ち、社長理念の精神に則り、法令はもとより社会規範、社内規定を遵守し、社会倫理に沿った行動をします。

その上で「地球環境向上を図る」をスローガンに、全社員が一体となって環境の保全に取り組みます。

社長理念

ピーク・ジャパンの経営理念は「信」(マコト)を貫く事。

- 1.確固たる信頼 ■時代のニーズを掴み、魅力ある企業体制作りを続ける事。
- 2.大いなる自信 ■慢心する事無く、常に原点を見つめ絶えまない努力を続ける事。
- 3.世界への発信 ■社会貢献を目的とし、常に開拓者として世界に情報発信し続ける事。

行動指針

当社の業務活動が環境に与える影響を検証し、

環境汚染の予防の推進ならびに環境関連法規類及びその他の規制を遵守するとともに環境マネジメントシステムの継続的改善を図ります。

次の項目を重点項目として定め、環境負荷の低減を推進します。

1. 二酸化炭素排出量の削減に努め、電力・ガソリンの使用量を低減します。
2. 廃棄物の排出量を削減し、分別を徹底します。
3. 節水し、水の使用量削減に努めます。
4. 不具合品の発生率を低減させ、環境に配慮した部品を提供することに努めます。
5. グリーン調達の拡大を図ります。
6. 業務の効率向上を図り、省エネ、省資源化に努めます。

環境方針は全社員に周知徹底し、環境保全に関する意識の向上を図ります。

また社外にも公表します。

制定日 2008年 6月16日

改定日 2018年 5月 1日

株式会社 ピーク・ジャパン

代表取締役 大澤 金満



3.環境経営目標

環境目標	基準値 2020年度	年度環境目標		
		2021年度	2022年度	2023年度
◇二酸化炭素排出量削減	19,307kg-CO2	18,342kg-CO2	17,763kg-CO2	17,376kg-CO2
※1 1.電力使用量削減 (単位:kWh/オフィス稼働1時間)	9.45 (29,380kWh) (12,957kg-CO2)	5%削減 8.98 (27,911kWh) (12,309kg-CO2)	8%削減 8.69 (27,030kWh) (11,920kg-CO2)	10%削減 8.50 (26,442kWh) (11,661kg-CO2)
※2 2.ガソリン使用量削減 (単位:ℓ/売上百万) (単位:ℓ)	1.09 2,735.37ℓ (6,351kg-CO2)	5%削減 1.04 2,598.60ℓ (6,033kg-CO2)	8%削減 1.00 2,516.54ℓ (5,843kg-CO2)	10%削減 0.98 2,461.83ℓ (5,716kg-CO2)
3.一般廃棄物排出量 (単位:kg)	65.0kg	65.0kg 維持管理	65.0kg 維持管理	65.0kg 維持管理
4.総排水量削減 (単位:m ³)	—	—	—	—
5.環境配慮製品の拡販(提供) (単位:%) (不具合品の削減)	2020年度の不具合 発生数量を100%とす る	5%削減	8%削減	10%削減
6.業務効率の向上 (業務手順書の作成)	手順書作成2件	1件/半年ごと	1件/半年ごと	1件/半年ごと

※1【電力】二酸化炭素排出係数:0.441kg-CO2/kWh → 令和2年度実績(電気事業者別排出係数/特定排出者の温暖効果ガス排出量算定用)

※2【ガソリン】二酸化炭素排出係数:2.32166kg-CO2/ℓ

※一般廃棄物排出量の削減については、排出量が少なくこれ以上の削減が見込めないため、数値化での目標設定を取りやめることとする。

しかし廃棄物の分別や削減の徹底は継続して取り組んでいくこととする。

※化学物質は使用していない。

※総排水量の削減については、ビル一括管理であることから計測が不可能であるため数値での目標設定は行わないが、

今後も節水に努めて利用していく。

4.環境経営計画と取組実績及び評価

環境目標	2020年度 実績(基準)	2021年度 目標	2021年度 実績	達成 区分	評価
◇二酸化炭素 排出量の削減	19,307kg-CO2	18,342kg-CO2	17,054kg-CO2		
1.電力使用量削減 ・空調機の温度管理 ・OA機器の非稼働時 電源切断 ・パソコン 省電力モード励行 単位:kWh/売上百万	9.45 29,380kWh (12,957kg-CO2)	5%削減 8.98 5%削減 27,911kWh (12,309kg-CO2)	0.74%増加 9.52 0.4%増加 29,497kWh (13,008kg-CO2)	×	基準年度に対し117kWhの増加、また1時間当たりの使用量も0.07kWh/1時間の増加となり、目標未達成。夏季の節電には成功したが冬季の最低気温が基準年度比と比べて若干低く、暖房使用により消費電力が増加したのだと思われる。来期以降の目標設定見直し。
2.ガソリン使用量削減 ・エコドライブ手順書の励行 ・アイドリングストップの励行 ・公共交通機関の利用 ・営業者間の相乗り励行 単位:l/売上百万	1.09 2,735.37ℓ (6,351kg-CO2)	5%削減 1.04 5%削減 2,598.60ℓ (6,033kg-CO2)	24.77%削減 0.82 36.29%削減 1,742.82ℓ (4,046kg-CO2)	○	基準年度に対して▲992.55の削減となり、目標達成。売上百万当たりのガソリン使用量は1.09ℓ/百万から0.82ℓ/百万へと削減できており、目標達成。昨年に続いてコロナ禍での社有車使用率の低下(約1台)がガソリン使用量の削減に繋がったと思われる。来期以降の目標設定見直し。
3.一般廃棄物の削減 ・廃棄物の分別化 ・ビン、ペットボトルの 購入削減 ・梱包材の再利用化	65.0	65.0	65.1	○	排出量が少量であり、またこれ以上の削減目標を数値化することが難しい為、適宜分別の徹底と廃棄物排出の抑制に努める。
4.総排水量の削減 ・節水表示貼出/啓蒙	—	—	—	○	テナントビル内で共同使用のため測定できないが、今後とも節水に努める。
5.環境配慮部品の 拡販(提供) (不良品発生率の削減)	2020年度の不具合発生数量を100%とする。	発生数量の割合を5%削減する	10.065%削減	○	客先への納入前に行う検品や、仕入先への指示・対応が実を結び、不具合部品の発生を防ぐことができていたと思われる。来期以降の目標設定見直し。
6.業務の効率向上 (業務手順書の作成)	2件/年間 (半年ごとに1件)	2件/年間 (半年ごとに1件)	①『棚残削減に向けた業務手続』(基本方針) ②業務改善、改革に伴う実行計画書の作成(5名/所属長、他)	○	余分、無駄な在庫を減らし適切な管理ができるようにと『棚残削減に向けた業務手続』を策定した。また各所属長および営業主任、計5名の研修会で議題に挙げた項目について、改善、改革の為の計画書(仮)を作成した。

※【電力】二酸化炭素排出係数:0.441kg-CO2/kWh

※【ガソリン】二酸化炭素排出係数:2.32166kg-CO2/ℓ

5.次年度の取組内容、及び中期目標

環境目標	基準値 2020年度	年度環境目標		
		2021年度	2022年度	2023年度
◇二酸化炭素排出量削減	19,307kg-CO2	18,342kg-CO2	17,648kg-CO2	16,754kg-CO2
1.電力使用量削減 (単位:kWh/オフィス稼働1時間)	9.45 29,380kWh (12,957kg-CO2)	5%削減 8.98 27,911kWh (12,309kg-CO2)	3%削減 9.17 28,499kWh (12,568kg-CO2)	5%削減 8.98 27,911kWh (12,309kg-CO2)
・空調機の適正温度の設定/利用時間の規制/定期的な清掃/退社前の電源スイッチの切断 ・不要箇所の照明消灯(減灯) ・設備/機器の未稼働時の切断、節電 ・自然光、通風の利用 ・クールビズ/ウォームビズの実施				
2.ガソリン使用量削減 (単位:ℓ/売上百万)	1.09 2,735.37ℓ (6,351kg-CO2)	5%削減 1.04 2,598.60ℓ (6,033kg-CO2)	20%削減 0.87 2,188.30ℓ (5,080kg-CO2)	30%削減 0.76 1,914.76ℓ (4,445kg-CO2)
・エコドライブ手順書の励行 ・公共交通機関の利用 ・営業者間の相乗りの励行				
3.一般廃棄物排出量 (単位:kg)	65.0kg	65.0kg 維持管理	65.0kg 維持管理	65.0kg 維持管理
・両面コピー、裏面コピーの徹底 ・可燃ごみの分別回収による資源化 ・梱包材の再利用化の徹底				
4.総排水量削減 (単位:m³)	—	—	—	—
・日常の節水 ・節水表示の設置				
5.環境配慮製品の拡販(提供) (不具合品の削減) (単位:%)	2020年度の不具合発生 数量を100%とする	5%削減	10%削減	12%削減
・製品含有化学物質管理規定の適用 ・是正処置対策の徹底、現地監査の確認(随時確認)				
6.業務効率の向上 (業務手順書の作成)	手順書作成2件	1件/半年ごと	1件/半年ごと	1件/半年ごと
・業務手順書、規定類の作成				
・倉庫の5Sの実施 ・教育資料の作成と教育実施				

※【電力】二酸化炭素排出係数:0.441kg-CO2/kWh → 令和02年度実績(電気事業者別排出係数/特定排出者の温暖効果ガス排出量算定用)

※【ガソリン】二酸化炭素排出係数:2.32166kg-CO2/ℓ

※一般廃棄物排出量の削減については、排出量が少なくこれ以上の削減が見込めないため、数値化での目標設定を取りやめることとする。

しかし廃棄物の分別や削減の徹底は継続して取り組んでいくこととする。

※化学物質は使用していない。

※総排水量の削減については、ブルー括管理であることから計測が不可能であるため数値での目標設定は行わないが、

今後も節水に努めて利用していく。

6.環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

適用される主な環境関連法規制は次の通りです。

環境関連法規制の遵守状況を評価した結果、環境関連法規への違反・訴訟はありませんでした。

なお、関係当局よりの違反等の指摘は過去5年間ありません。管理会社など、社外からの指摘はありませんでした。

適用法令	適用される事項
廃棄物処理法	一般廃棄物
横浜市廃棄物等の減量化、資源化、適正処理に関する条例	廃棄物等の減量化、資源化、適正処理

7.代表者による全体評価と見直し結果・指示

実施日：2022年5月26日（木）
◇ 外部からの苦情や要望及びその対応結果：無し
◇ 代表者による前回の指示への取組結果
<p>①電力・ガソリン使用量（二酸化炭素排出量の削減）</p> <p>ガソリンは使用量の実績、売上ベースともに目標を達成したが、電力は12月以降の消費電力が増加しており、実績、時間ベースともに目標未達となっている。主に空調機/暖房使用に伴う結果と思われる。再度取り組みを見直し、削減を目指してほしい。ガソリンの使用量についてはコロナ禍の行動制限（訪問制限）が続いており、社有車での行動が限られていることが大きな要因であると思われる。</p> <p>③業務効率の向上：</p> <p>現在の業務に加えて各部署、各業務ごとのマニュアル作成を指示するのは難しいことかもしれないが、少しずつでも形にしていってほしい。また従業員が積極的に能力を履修し糧にした上で無駄なく業務をこなし、余暇を楽しめるよう、引き続き取り組んでほしい。（各所属長、及び営業主任の計5名で行っている研修会においても、業務改革、改善施策を期待したい）</p>
◇ 代表者の評価
<p>電力使用量は目標未達成、ガソリン使用量は目標達成。電力については12月以降の冬季に使用量が増加しているため、今一度施策を振り返り、今後も節電を意識しながら取り組んでほしい。マニュアル作成は今後も継続してほしいが、作成することを目的としないよう常に業務改善を意識して取り組んでほしい。</p>
◇ 代表者の見直し（①環境経営方針、②環境経営目標及び環境経営計画、③実施体制）
<p>①環境方針については変更しないものとする。</p> <p>②当社の主な環境目標は「電力とガソリンの使用量削減/二酸化炭素排出量の削減」「環境配慮部品の拡販（提供/不良品率の低減）」「業務効率の向上」であるが、特に日常業務では電力とガソリンの環境負荷が身近な問題としてあげられる。わかりやすい取り組み内容でもある為、現状の管理方法で引き続き削減に向かって取り組んでいく。環境配慮製品の拡販＝不具合品発生率の低減、業務効率の向上についても、継続して取り組んでいくこととする。</p> <p>③エコアクション21全体のシステムについては、変更しないものとする。</p>
◇ 代表者による指示事項
<p>①電力・ガソリン使用量削減</p> <p>引き続きCO2排出量の低減に努める事。</p> <p>③業務効率の向上</p> <p>研修会による業務改善/改革含め、業務効率向上のために取り組んでいく事。</p>

以上